

## 認定こども園 下関短期大学付属第一幼稚園

### 学校関係者評価委員の意見

評価委員 篠田 文夫

「幼稚園が力を持つ」ためには、次の条件が備わっていることが必要だと思います。

- 1 幼稚園の教育目標が分かりやすく定められており、教職員に共有されていること
- 2 教職員一人ひとりが、教育的力量を持っていること
- 3 教職員全体のモラルが高いということ
- 4 PTAや地域の支援態勢が整っていること

平成30年度の「自己評価結果公表シート」及び「保護者アンケート集計結果」を読み、更には、園の行事を参観させてもらったことを思い起こしながら、下関短期大学付属第一幼稚園は、本当に底力を持った幼稚園だとの感を深くしています。

「教育目標」が分かりやすく的確な表現で定められています。この「教育目標」が一人ひとりの教職員に具体的にイメージされ、その具現に向かって力を合わせあってください。“自分で考えて行動し、主体的に活動する”とは、どういうことなのか、そのためには日々の保育において留意しなければならないことは何か、等々、職員室の話題に上ることを期待しています。それは、教職員全体のモラルを高めることにつながります。保育活動のどの部分を切り取っても、この教育目標と関連を持っているということが重要だと思います。

「教職員の教育的力量」を高めていくためには、不断の研修が極めて大切です。研修は保育実践の質を高めていくだけでなく、教職員の人間的な幅も広げていくものです。その意味から、保育の研究にとどまらず、広く教養を豊かにしていくことが必要です。それは必ず、子どもたちに還元されていきます。外に出かけていく研修の機会は、思うに任せない事情もあると思いますが、一人の研修を個人のものとしてせず、「復伝」の方法等を工夫して、教職員皆のものとしていくことが大切です。しっかりとした丁寧な復伝は、研修参加者本人の深い理解にも繋がっていきます。研究・研修は、仲間と話し合い、深め合っていくことで一層身につき、生きたものとなっていきます。自由闊達に、日常的に互いに保育を語り合うことこそ、教職員の実践的な教育的力量を高め、職場のモラルを高めていく基盤です。

「指導計画」は設計図にたとえられることもありますが、「仲間との旅行計画」のようなものではないかと思っています。旅行は、天候や思わぬ事情等により途中で少し変わることもあります。短期の指導計画（週案・日案）は、子どもの興味・関心・熱中度の向きどころによっては、「案」を途中で修正していくことも必要です。柔軟に修正していく対応力が大事になってきます。指導計画を立てる際に考慮しなければならないことは、「保育活動のねらいを明確にしておくこと」「子どもの発達段階や興味、関心を考慮すること」「意欲的に活動するように、環境構成に気を配ること」「指導が終わったら必ず反省と評価をし、次の実践に生かしていくこと」などだと思います。

「子どもを観察し理解していく」うえで気をつけたいことは、子どもを見る目は「アナログ時計式」でありたいということです。子どもは連続して変化し、成長していく存在であるとして見ていかなければなりません。昨日の子どもがいて、明日の子どもがいるのです。子どもは、それぞれに独立した「個」の存在ですから、“三歳児というものは…”と、一括りにして見てはならないと思います。子どもに寄り添うということは、“目と耳と心”で接し、「今の子どもの気持ち」になってやることです。

運動会や作品展などの幼稚園行事を参観して、PTAの皆さんの献身的な協力に大きな感銘を受けています。“幼稚園と家庭とが一体となって子どもを育てている。”、いつもそんな気持ちになっています。保護者アンケートの自由記述の意見に対する園の回答を読み、教職員の皆さんの熱意と誠意と愛情が胸に迫ってきました。「子どもたちの安全」ということに一層気を配りながら、家庭と幼稚園の相互理解と信頼に立って、一人ひとりの子どもの成長を援助していきましょう。

平成31年4月吉日

認定こども園

下関短期大学付属第一幼稚園

園長 南野 朱美 様

### 学校関係者評価委員の意見

アンケート用紙を見て「幼稚園に行くのが楽しみである」という項目がありますが、これは保護者から見て達成しているとの事。園児たちが、ほぼ全員「幼稚園に行くのが楽しみである」と思っている事は一番大切な事だと思います。教職員の方と園児との関係が、とてもスムーズに行われている良い事だと思います。これからも続けて下さい。

作品展に於いても絵を書いたり、物を作ったり、園児たちが興味がわく様に導き指導されているのでどの作品も個性豊かで、明るくとてもよく出来ていると毎年見させて頂き感心しております。

これも先生方と園児との信頼関係がうまく出来上がっていると思います。

また、運動会や行事など保護者の方がご夫婦で協力して先生方や各委員とのコミュニケーションが出来ていて素晴らしです。これからも園児の目線で見えて優しく、また厳しさも交えながら指導を続けて下さい。

教職員と保護者の間に少し行き違いがあるようですがこれはお互いに連絡・確認を怠らずにされると良いと思います。

最近では園児に対する保護者からの虐待、あるいは教職員からの虐待がとても多く世間を騒がせていますが、人として絶対にあってはいけない事です。

認定こども園となり小さな園児も増え仕事も増えて気苦労が絶えないと思いますが、園児一人ひとりの健康状態、行動等になにかあれば悪くならないうちに気配り、目配りをして対応して頂き事故のないように教職員、保護者が一つになり徹底して安全管理に気をつけて頂きたいです。

学校関係者評価委員

本田美代子

## 平成 30 年度学校評価について

保護者アンケート及び自己評価公表シートに基づき、平成 30 年度学校評価をさせていただきました。

はじめに下関短期大学付属第一幼稚園の教育目標、重点目標については保護者アンケートの結果から、ほぼ達成されていると評価しました。幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培うものです。遊びを通しての指導を先生方が日々考え検証され、行事という発表の場を設定することにより子どもたちの自信につながり、さらに主体的な学びに向かう力が育まれているように思われます。

また、給食指導につきましては前年度と比較すると先生方や栄養士の方の工夫改善が見られました。子どもの食べ具合を必要に応じて保護者に連絡するなど、幼稚園と家庭が連携して食育に取り組まれているようです。給食のサンプルに関しては課題があるようですが、食育という観点から給食指導について考えますと達成していると評価しました。

今後の課題としては、保護者や地域との連携で子どもを育成するということを踏まえた幼児教育を目指していただきたいです。保護者や地域とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築いていくことは、子どもの健やかな成長に大きく貢献するものがあります。

さらに、これまでの先生方の取り組みを土台とし、子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づいた意図的・計画的な環境構成の中で子どもたちの好奇心や探究心を引き出す幼児教育を行ってくださいますようお願い申し上げます。

平成 31 年 4 月 10 日

学校関係者評価委員 松尾 真紀